

感染症抑えるマスク

【京都】炭素新素材開発の大木工芸(大津市、大木武彦社長、077・549・1309)は龍谷大学と共同で、インフルエンザなど感染症のウイルスを抑えるマスクを開発した。従来のマスクは細菌などの侵入を防いでもフィルター内で繁殖し、二次感染する恐れがあったが、新製品は二次感染の心配が少ない。月内にも発売し、月間販売数は十万枚を目指す。

大木工芸、龍谷大と開発

竹炭・カテキン配合

二月下旬に発売の予定だったが、重症急性呼吸器症候群(SARS)や鳥インフルエンザの流行が懸念されているため、約一カ月早めた。十二月末に中国に進出している日本企業へ試作品を百枚出荷した。アジア各国にも輸出する計画。

同様の効果があるマスクは三菱重工業も近く発売を予定している。大木工芸のマスクは少なくとも五十回は洗って繰り返し使えるようにし、保湿効果のある竹炭や抗菌・消臭作用のあるカテキンを配合する。

加水分解によりたんぱく質でできたウイルスの膜を溶かし、ウイルス死滅の目的に酵素をフィルターの繊維に化学結合した。財団法人の日本食品分析センター(東京・渋谷、斎藤文一理事長)がSARSウイルスとほぼ同じ構造のたんぱく質で

実験したところ、大半のたんぱく質を分解した。価格は一枚千二百円。主に個人の需要を見込む。大木工芸は九七年設立。二〇〇三年九月初売上高は約二億二千万円。



東急ハンズ 新宿店 売上No.1



マスク本体には愛媛県今治市のタオルメーカーの生地を使った